

「生命謳歌」

曖昧な議題に乗っかって
飽きる世界にどうも違和感で
今日までの話は秘密事ですから

正論を突きつはて笑って
知らんぷりなら案外余裕です
見下された貴方にこの想いを

透明で偉大な貴方へ
送る気持ちは今日も同じで
無駄な出費もたまには大事な事なので

運命を免れた時には
ちゃんと2人で腹を満たして
この話の続きを終わらせましょ

夢は覚めずに彷徨い続け
泣いているの
貴方に触れたこの刃
部屋の隅っこで錆びてただ

生命謳歌、響き出す
誰も知らないこのメロディ
だから散々日々を繰り返す
何かを守るため

生命謳歌、時代を綴る
単純明快、夜に響く
衝動に任せ僕らは
「明日も生きるの」

不正解さえも答えになって
真実が呼んでいる
貴方に気付いてもらえるかな
待ってるって信じて

贅沢に頼る欲望が
頭の中をぐるぐる回って
僕も知らない手付きに
殺されてしまっても文句は無いぜ

幸福を噛み締める時には
当たり前の日常を払って
神も見据えぬ悟りを
開きましょう

誰かの声に戸惑い続け
ここに居るの
貴方がくれたはずなんだ
生きる理由と居場所なんだ
あの日一人ぼっちの僕の手を

生命謳歌、歌います
贅沢に響かせてます
馬鹿になっても僕が歌うのは
貴方を守るため

最低な日々嫌気が差し
どうしても良くなってしまう夜
満天の星に照らされ
「嫌でも目立つの」

感情なんか殺してしまえ
本能に万々歳
今だけ光っていてあげるのさ

未来に託して
世代を繰り返して
待ってるって信じて

